

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070402096		
法人名	有限会社 山崎メディカルサービス		
事業所名	グループホーム 琴音		
所在地	〒803-0844 福岡県北九州市小倉北区真鶴1丁目12番10号 Tel 093-562-5750		
自己評価作成日	令和04年02月14日	評価結果確定日	令和04年03月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>交通の便が良い 家賃が高額でない 生活感が感じられる</p>
-----------------------------------

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	令和04年03月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>板櫃川の桜並木や公園が近い好立地に、2004年5月に開設した定員18名のグループホームである。母体医療法人の月2回の往診と訪問看護師、介護職員との連携で24時間安心の医療体制が整っている。利用者の食べたいものを聞きながら職員が交代で作る家庭的で美味しい料理は、コロナ禍で外出、外食を自粛している利用者の大きな楽しみとなっている。法人全体で処遇改善に取り組み、働きやすい環境の中で職員は定着している。長く勤める職員が多く、馴染みの関係の中で利用者一人ひとりに細やかな心遣いで丁寧な寄り添い、第二の家族として温かなケアを実践している。アットホームな雰囲気の中、リビングには利用者や職員の笑い声が溢れ、「いつ行っても明るい顔をしているから安心」と、家族の信頼も厚い「グループホーム 琴音」である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有し実践できるように努めている	ホーム独自介護理念を見やすい場所に掲示し、職員がじかに見ることで共有に努めている。入職時に管理者から理念について説明を行い、業務の中で職員間で話し合っ共有し、家庭的な雰囲気の中で利用者の尊厳を守る介護サービスの提供に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を意識し日々努めている	コロナ対策以前は、利用者と職員が町内会の一員として、公園の清掃や花壇の植え替え、町内会主催の藤見会等、地域の行事に積極的に参加していた。また、ホーム前の公園や板櫃川沿いの散歩時には、近隣住民と挨拶や立ち話を心掛ける等、日常的な交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議を通じて理解と支援を求めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	十分な取り組みができています	以前は、町内会会長、副会長、地域包括支援センター職員の参加を得て、2ヶ月毎に開催していたが、コロナ感染症対策以前は、書面でホームの運営状況や行事報告、研修報告、ヒヤリはつと、事故等を報告している。電話等で意見や要望を聞き取り、出された意見や情報をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議の参加委員が増えないことが長年の課題である。コロナ収束後には、他事業所管理者との相互参加や、訪問看護師、訪問歯科の歯科衛生士等に参加して貰い、専門性を活かした勉強会を行なう等、マンネリ化を防ぐ手立てを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密とは言わないが 必要に応じて関係をつなげている	管理者は、行政窓口にも、ホームの空き状況や事故等を報告し、疑問点や困難事例の相談を行い、情報交換しながら連携を図っている。運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し(現在は書面開催)、ホームの現状を伝え、助言や情報提供を受け、協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し取り組んでいる	年2回、身体拘束をテーマとした外部研修に必ず参加して、ミーティング時に発表してもらうことで周知を図っている。身体拘束防止適正化委員会を設置して3ヶ月に1回話し合いを行い、禁止行為の事例を挙げて検証し、言葉遣いや対応について振り返り、意識づけを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関して今後委員会設置することから年2回の研修に内部研修をするという事で防止につなげるように努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外部研修に参加し支援できるように努めている	外部研修で学んだ職員が内部で伝達研修を行い、権利擁護制度の理解に努めている。制度に関する資料やパンフレットを用意し、利用者や家族から相談があれば、制度の内容や申請方法を説明し、申請機関に相談しながら利用者の権利や財産が、不利益を被らないように取り組んでいる。現在、権利擁護の制度を活用している利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居と解約に関しては、必ず十分な説明を行う事で、ほぼトラブルもなくこれまで来ている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何よりもご家族の考え要望を重視し反映できている	日常生活の中で、職員は利用者の意見や要望を聴き取り、出来る事から実現している。家族については、コロナ禍で面会が中止となっている為、主に電話や手紙で近況報告をする中でコミュニケーションを取りながら意見や要望を聴き取り、ホーム運営や介護サービスに反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを通じて反映できている	毎月職員会議を開催し、司会と書記を職員が交代で行い、意見が言いやすい雰囲気の中で、利用者一人ひとりの介護計画の確認と業務連絡を行い、活発な意見交換が行われている。出された意見や要望は、ホーム運営や介護サービスに反映させている。管理者は年2回、職員と面談を行い、個別に職員の思いを聴いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、シフトを把握し管理者は、現場の声を代表者に伝え環境整備に努めている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	やる気や向上心などを重視し能力に応じて働けるように努めている	管理者は、職員の能力や特技を把握し、役割分担や勤務体制に配慮して、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。また、正規雇用、賞与の支給、昇給等、職員の処遇改善に取り組む人材確保に努めている。職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する考え方を重視し、採用後は、新人研修や内部、外部の研修受講を奨励し、職員の介護技術の向上を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念に掲げられていることもあり 職員には、研修等を通し取り組んでいる	利用者の人権を尊重する介護の在り方を、職員会議や申し送りの中で話し合っている。管理者は職員に対して、利用者との距離感をしっかり保つてうこと、利用者の人権を守ることを常に頭に入れて話すようにと伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の特性を把握し研修を受ける機会を作り面談など通じ努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	できる限り それができるように努めている		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族はもとよりご本人の言葉に耳を傾け支援できている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階からご家族が安心できるように会話を重視し関係づくりを心がけている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず必要なことを見極めてサービス対応ができています		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者の関係は、正比例し共に支えあっていることを理解しなければならない するために職員は努力している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族とご本人の関係を理解し家族との関係を築けるように努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の能力を理解し職員は懸け橋になるように努めている	利用者の家族や友人、知人の面会を歓迎し、また来てもらえるよう声掛けしていたが、現在は新型コロナウイルス感染症対策の為、中止としている。電話で話したり、手紙のやり取りを支援して、ホーム入居でこれまで築いてきた馴染みの関係が途切れないように取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者の潤滑油として又観察し関係の支援に努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族やご本人の関係を理解し終了後も支援できるように努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の能力を理解して本人翻意を重視し把握に努めている	職員は、日常生活の中で、利用者の思いや意向を聴き取り、実現に向けて取り組んでいる。意向表出が困難な利用者には、家族に相談し、利用者の表情や仕草から気持ちを汲み取り、利用者本位のケアを行えるよう職員間で検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴やこれまでの暮らしを把握するように意識し努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録もだが、日々の暮らしぶりを観察し現状の理解に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は、ご家族、ご本人、職員からの情報を踏まえ出来る介護計画を作成できるように努めている	利用者や家族の意見や要望を聴き取り、毎月のミーティングの中で職員間で検討し、課題を明確にして、半年毎に利用者本位の介護計画を作成している。利用者の重度化や状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を記入し又観察などから計画の見直しに役に立つように工夫できている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	広い面での支援を意識しサービスできるように取り組みができています		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し 暮らしの支援ができるように努めている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人・ご家族の希望を優先し適切な医療が受けられるように努めている	現在、利用者全員が母体医療法人の医師を主治医とし、月2回往診が行われている。毎朝、健康状態をファックスで病院に伝え、変化がある場合は相談出来る体制が整っている。訪問看護師との連携や他科受診への同行等、利用者や家族が安心して任せられる医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の生活を観察し記録しかつ看護との連携を意識し適切な看護ができるように努めている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状態を把握し早期に退院できるように医療機関との連携を密にしている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族の希望や要望を踏まえて今後の支援ができるよう取り組みができています	重要事項説明書を基に、ホームで出来るターミナルケアについて説明し、利用者や家族の希望を聴きとっている。利用者の重度化が進むと、主治医を交えて家族との話し合いを重ね、出来るだけ希望に沿えるよう努力している。看取りを経験し職員のスキルアップに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、これまでの経験を活かし慌てず対応できるような備えている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を通じ利用者のできる力を把握し協力体制を作っている	避難訓練(自主訓練)を毎年2回実施し、水消火器の使い方を確認し、利用者をホーム前の公園に避難誘導を実際に行い、自治会の方や家族の参加も得ている。また、ホームがマンションの2階にあることから、同じマンションの住民や近所の方にも、非常時の協力を要請している。非常食や飲料水、ラジオはユニット毎に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にあるように 何より尊厳を考え対応できている	職員は利用者を敬い、言葉遣いや対応に気を配り、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスを提供している。理念に人権の尊重を掲げ、利用者の尊厳を尊重した介護の実践に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が職員に説明し周知を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を優先し利用者の状態に応じて支援し希望や思いが叶うようにしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを優先し希望にそえるようにできている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みやその人らしさが出るように支援している		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることへの楽しみを支援できるように職員は、動いている	利用者の嗜好を聴き取り、状態に配慮しながら、職員手作りの美味しい料理をユニット毎に提供している。コロナ禍で食べる料理が今まで以上に大きな楽しみとなっているため、出来るだけ利用者の思いを反映するようにしている。利用者とは同じ料理と一緒に食べて、楽しい食事の時間を過ごしている。また、テーブル拭き等、利用者の残存機能に応じて手伝ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段から記録に留めて個々の状態に応じて支援ができています		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、誤嚥性肺炎を防止するうえで必要なことであり利用者の状態に応じて支援している		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の個々の能力を理解し自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その日の排泄状況や水分量から、適時、トイレ誘導を行っている。夜間は利用者の希望や状態に配慮して、ポータブルトイレ、パット、リハビリパンツ、オムツ等、利用者一人ひとりに合わせて対応し、オムツ使用の軽減と利用者の自信回復に繋げている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ほとんどの利用者が排泄に関して何らかの問題があり薬にたよっている現状を踏まえ運動や食事など違う所での取り組みはできている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状態を把握し楽しく入浴できるように支援している	入浴は、1日3人ずつの支援を行なっているので、週2日の入浴となっている。利用者の体調や気分に合わせて、ゆっくりと時間をかけて入浴している。利用者や職員が1対1で関わる事のできる大切な時間と捉え、利用者の思いや意向を引き出している。入浴が困難な場合は、清拭や足浴に変更し清潔保持に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の日頃の生活リズムを把握しよく眠れるように支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬を理解し症状に応じて確認し支援ができています		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好みやできることを踏まえ支援している		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を優先しご家族の協力をお願いし支援できている	コロナ対策以前は、外出レクを企画し、家族と一緒にバスハイク、季節の花見、地域の行事、ドライブ等、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んできたが、現在は自粛している。ホーム前の公園や板櫃川沿いの桜並木が、日常的な散歩コースであり、利用者の体調に配慮しながら外に出て外気浴の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状態を理解し本院の希望にそえるように支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の状態を考え自由にできるように心整理静音をじがけができています		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ 生活感・季節感を意識し工夫している	ビルの2階にあるホームであるが、壁紙を張り替え、床の清掃を隅々まで行い、利用者が心地よく過ごせるように工夫している。利用者の動線に配慮しながら、整理整頓に取り組み、狭い空間も、職員の創意工夫により、家庭的で明るい雰囲気の良い共用空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、職員が間に入り居心地の良い居場所づくりを工夫している		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの個人の状態を考えて工夫できている	利用者の馴染みの家具や身の回りの物、仏壇、位牌、家族の写真等、大切な物を持ち込んで設置し、利用者が安心して過ごす事ができるように配慮している。また、換気や清掃を小まめに行い、利用者が居心地良く暮らせる清潔で明るい雰囲気の居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態を把握し自立した生活ができるように工夫できている		